

PTA だより

特別編

マイプラ
全力応援！
特集号

子供たちが自分で決め、選び、進める学び、マイプランスクール。毎月1回、丸1日をかけて探究学習を行う四小の新しい学びの形です。令和4年度よりスタートしたこの取組は、今まさに進化をしている真っ最中。四小PTAも、このマイプランスクールに興味津々！2学期から取材をさせて頂いてきました。毎月のマイプランスクールの日、子供たちも、先生たちも楽しそう。生き生きとした姿があちこちで見られます。

今回のPTAだよりはマイプラ全力応援！特集号です。年間を通して四小を訪れ、探究学習をサポートしてくださっている市川 力先生のインタビューをたっぷり掲載。マイプランスクールの秘密に迫ります。また、日々の子育てを面白くするヒントがたくさん。楽しくお読みいただけたら幸いです。

Enjoy! マイプラフェスタ

11月4日(土)にいよいよ開催。先生方に見どころを教えてくださいました。



三浦 寛朗 校長先生

子供たち一人一人が主役！自分の言葉で自分の想いを語る、自分の好きを語りつくす、そして、一人一人が輝く場になるように願っています。教員一同、力を合わせて子供たちを支援しています。

マイプラフェスタへの
想いを聞かせて
下さい。

自分のやりたいことが見つかった時の生き生きした笑顔や、思い通りにいかず歯を食いしばって悩んでいる表情、真剣に観察する眼差し。毎回「子供の力ってすごい」と感動していました。

これまでの
マイプランスクール
子供たちはどんな
様子でしたか？

自分の言葉で自分の想いを語るところです。声が小さくなってしまったり、うまく言葉にできなかったりすることもあるかもしれませんが、そこも含めて子供たちを応援していただければと思います。

マイプラフェスタの
見どころは
何ですか？

尾沼 直也 先生

(研究推進委員長)



子供たちとともに創ってきたマイプラフェスタです。先生たちは「伴走者」として子供たちの「やりたい」を支える気持ちでやってきました。子供たちの想いが感じられる日になってくれると嬉しいです。

自ら計画を立て、楽しみ、調べ、やってみて「これでいいのかな。」と悩み「もっとこうしたい。」と考えながら活動してきました。回を重ねる度に、学びへ向かう姿が育っています。「楽しんでいる」「試行錯誤している」姿を感じていただけると幸いです。

「発表することで学ぶ。」完成を発表するのではなく、「自分の想い」や「自分の好きなこと」、自分にとっての「マイプランスクール」などを発表します。子供たち一人一人の口から出てくる言葉の良さ、素敵さを感じていただけたらありがたいと思います。

令和5年9月1日 道徳授業地区公開講座だったこの日、快く私たちの取材に応じて下さった市川先生。これを読めば、マイプラがわかる！そんな貴重なインタビューとなっています。

取材 : PTA会長 山田 友子

マイプラって何だ？

自分が世界を発見できる存在なんだ

山田 マイプランスクールが始まって1年半です。大人の方も理解をしようとするのですが、具体的にどんなことをやっているの？という声や、探究といっても何でも自由にしていて良いの？など様々な声を聞きます。マイプランスクールの魅力は何だと思われませんか？

市川先生 僕はマイプランスクールは、「自分が自分なりの世界を発見できる存在なんだっていうことを、すべての子が（↑ここが大事です）確信できる学び」だと思っています。

算数や国語だと身につくのにどうしても時間差が出やすいでしょう。でも、予測不可能な時代を生き抜いていくために必要な「自分は世界を発見できる存在なんだ」と確信する学びは、すべての子をとどこぼすことなく同時に行うことができます。これからの世の中を生き抜いていく子どもたちの大変さを考える時、自分なりの発見を礎にして、たくましく人生を歩むベースこそ、小学生時代につくるべきではないでしょうか。そのためにマイプランスクールがあると思っています。

じっくり考えている6年間をいかに大人が担保できるか

山田 それを受けて、私たち大人はどんな風に子供たちに接していけば良いと思いますか？

市川先生 多分、今までの教育というのは、前倒しとか、あるいは早く身につけるとか、他の人より出来ていることが良いとされていました。みんなそれぞれいいんだよって口では言っているものの、やっぱり他の子と比較して、うちの子は大丈夫かしらって感じたり、あの子はここまで出来ているのに……みたいなことで余計に心配してしまうかもしれない。それを百パーセント捨てるという覚悟なんだと思います。先に進むんじやなくて、むしろ止まっていることとか、あるいはここ（四小で）でじっくり考えている6年間をいかに担保できるか。



いち かわ ちから
年間講師 **市川 力** 先生

PROFILE

一般社団法人みつかる+わかる代表理事
慶応義塾大学SFC研究所上席所員
広域通信制明蓬館高等学校副理事長

長年、大人と子どもが一緒になって見えないなりゆきを追いかける学びを研究実践。現在は、全国各地で多様な人たちが持ち前の好奇心を発揮してともに成長する場づくりを行っている。

主な著書は『探究する力』2009年（知の探究社）
井庭崇編『クリエイティブ・ラーニング
創造社会の学びと教育』2019年
（慶応義塾大学出版会）
井庭崇との共著『ジェネレーター学びと
活動の生成』2022年（学事出版）



市川先生 だからどちらかというと、サンクチュアリ（聖域）を作ることなんじゃないかと思います。

山田 まさにマイプランスクールのことですね。

市川先生 そうです。今までだったら、これをやることによって、他の子は中学からやることを5年生からやりやすよとか、この能力を身につけることによって、こういう事に対応できますよだったんです。でもこれからは身につける学びじゃなくて、身につけている力を発揮する学びなんです。で、我々の身につけている学びの根源は何かといたら好奇心です。これから、先行きが見えないようなVUCA時代（※1）にとにかく大事なものは、自分が身につけている好奇心というものを生かして、いかにあれこれ試すことができるか。これまで評価されてきたような

これからの時代 大人はどうすればいい？

賢く対応する力よりも、地味に泥臭く続けていく。そんな力こそが重要になってきます。続けていくというのは、何か気になるものがあつたら、ただ集めてるだけでいい。小学生時代に気になったものの「カケラ」をどれだけ集めていけるか。そしてその集めたものを「今、僕はこんなものを集めましたよ。その集めたものからこんなことが見えてきたんだけど、皆さんはどう思いますか？」ってことが言えるのがマイプランスクールの発表だと思っているんです。

子供が進んでいないように見える時間が
実は愛おしい

市川先生 例えばSDGsの課題があると思います。この課題についての「対策」を最初から考えようとしちゃう。でも

※1 VUCA時代 とは…
Volatility（変動性）
Uncertainty（不確実性）
Complexity（複雑性）
Ambiguity（曖昧性）という4つの単語の頭文字をとった言葉で、目まぐるしく変転する予測困難な時代のこと

対策を決めるということの前にまずは、自分が気になることをいかに集めていくかっていうことが重要なんです。そういうことができる時間が小学生時代なんだよと。昔と比べて、いろんなものがあるということは可哀想ですよ。僕らの子どもの頃はなかったから幸せだったのかもしれない。だってスマホもないし、便利なものがないから、そりゃ主体的になりますよ。でも今の子どもたちはなりにくですよ。いろんなものを全部与えられているから考える余裕がないですよ。

市川先生 スマホを見た
ら、パツと答えが出ちゃ
う。だから大事なのは、す
ぐに分かつちゃうことでは
なくて、じっくり自分なり
に疑問をあためて、ああ
かな、こうかなって考える
プロセスです。自分であれ
これ妄想したり、考えたり
という余白の時間を過ごす
ことが小学生時代なのだ
という視点を大人が持つこ
とです。ひたすら体験し、自
分なりの発見を集めてくる
のが小学校の6年間なのだ
と思うと、一見停滞し、進
んでいないように見える時
間を過ごしていることが、
力を蓄えている時間に思
え、愛おしく感じられるの
ではないでしょうか。これ
って大事ですよ。進んでな
いと不安になるっていうの
を捨てましょう。そうじゃ
なくて、止まってじっくり
考えてることっていうのを
安心して見ていればいいん
です。

子供がじっくり 考えているのを 安心して みていればいい

大人が純粋に
面白いだけ

山田 好奇心から何となく
おもしろいと子供たちが見つ
けてきたものを、「それは勉

強とは関係のな
いものだから」
と決めつけてし
まいがちで反省
します。それい
いねってという感
覚を、家庭で、
学校で持ち続け
ていくにはどう
すればいいでし
ょうか？

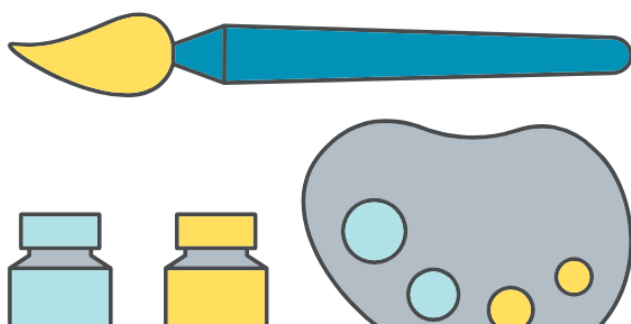
市川先生 そう
なんですよね。
でも、子供とど
うコミュニケーション
したらいい
んだろうとか、
どう褒めたら
いいんだろうとか、
難しい捉え
ないで大丈夫。そういうのを
全部捨てて、子供が発見した
ものを、大人が純粋に面白い
だけでいい。それが役に立
ちそうとか、これは勉強に
繋がるか、とか考えることが
無駄だと気づけばいいだけ。

子どものしょうもない思いつ
きをただ面白がるだけでいい
の？と親は不安になるかもしれ
ませんが、むしろ心配すべ
きは、その不安が子どもに伝
染し、「どうせ私のことを信
頼していないんだよね」と思
わせてしまい、子どもの自尊
心・自己効力感を傷つけるこ
とです。これほど学びや成長
を削ぐ対応はありません。

「その発見がどこに繋がって
くるかな。君、おもしろいも
の集めてるじゃないか。」と
いう信頼感が重要です。

マイプラフェスタ
は「愛でる」
絶好の機会

山田 十一月四日(土)に
は、いよいよマイプラフェス
タがあります。見どころや、
楽しみ方がありますか？



市川先生 保護者の皆さん

は、ぜひ子供たちの応援団として、彼らの発表から面白いところを見つけてみて下さい。またぜひ、それを「愛でて」欲しいと思っています。そして発表では、生煮えのアイデアを言うことが許されるということが重要です。子供たちはプレゼンはするのです。が、大切なのは成果ではありません。彼らの経過を、大人が愛でる機会がマイプランスクールの発表会なんです。

山田 昨年度末にもマイ

プランスクールの発表会がありました。大人の私たちは出来栄にどうしても目がいきがちです。でも、自分の好きなことや、気になったことを選んで、調べて、それを自分の言葉で発表することそのものに「いいね」ができるのが大人の楽しみなのかもしれません。各ブースで発表という形も、我が子だけじゃなくて、うちの子の友達だっ

たり、近所の子だったり、全然知らない子の発表を見て回ることが出来ます。ちょっとした感想を書いて、彼らの進み方を「愛でる」チャンスでもありますよね。それができれば、みんなで、地域で、子供たちを育てることが出来ます。

市川先生 それを大人の皆

さんがしてくださるって最高だと思います。僕は全国いろんなところでこのような学びの姿を見てるからこそ、それを四小のマイプランスクールで還元したいというのがあって、とにかくこういう学びが自分の子どもを通わせている学校で行われているというのは素晴らしいことなんだと思っ

ここまでやってる学校は公立ではなかなかありません。

山田 公立でやっているというのがすごいことですよ。

市川先生 はい。逆に公立だ

からできることがあります。例えば六百人の生徒がいる学校だったら、何か面白いものを一人一個見つけたら、六百個の情報が一気に集まります。世界を変えちゃうような、思いもよらないものができるだろうって。つまり、みんなで一緒に何かをして、それぞれの違った見方が集まることで、一人では見えない何か、気づかなかった大事なことで、これまでにない視点が自ずと浮かび上がってしまうのです。この場合、むしろ子どもの個性もバックグラウンドもばらつきのある公立の方が豊かな情報を得られます。学力が一定の範囲内で、均質な子どもが集まった方が、これからの時代を変えるような大胆で面白い発想は生まれにくいでしょう。

「愛でる」



という在り方

大人は好奇心を 思い出せる。



山田 私たち親世代の教育は、もっといい学校へ進むことや、偏差値が大切という考え方が主流でした。ChatGPTさえも思いつかないかもしれない子供たちの思いつきや発見、本当に信じるには、こちらも変化していかなければと思うのですが、プレッシャーを感じます。

市川先生 いやいやそんな必要はありません。教育観を変えるのは難しいし、変えて本当によいのかと不安になる気持ちはわかりますが、みなさんの子ども時代を思い出してください。しょうもない発見面白がるのか、わけのわからないものを集めるとか、自然にやっていたはず。それをあなたも思い出せるから大丈夫！と心から伝えたいですね。好奇心は蓋がされているだけで消えてませんから。だから蓋は、ぱかっと一瞬にして開きます。大人でもね！

もっと市川先生の活動を知りたくなった方はこちらも

探究的な学びの実践「Feel度Walk」と呼ばれる活動についても知ることができます。

講談社のウェブマガジン「コクリコ」

～【今こそ学力観のアップデートをするとき】親子で探究実践～

第1回

<https://cocreco.kodansha.co.jp/cocreco/general/study/hcDnV>

第2回

<https://cocreco.kodansha.co.jp/cocreco/general/study/BkTSe>

第3回

<https://cocreco.kodansha.co.jp/cocreco/general/study/fKn9W>

第4回

<https://cocreco.kodansha.co.jp/cocreco/general/study/bAIAt>

第5回

<https://cocreco.kodansha.co.jp/cocreco/general/study/mAsNh>



第1回はこちらを読み込んでも
ご覧いただけます。 ▲